

スタートアップとともに未来を切り開く高雄市

－ AIの活用で街全体をレベルアップする台湾の港都－

日本台湾交流協会高雄事務所次長 是枝 憲一郎

1. はじめに

台湾南部最大の都市であり、鉄鋼業や石油精製業など重化学工業の街として台湾の経済発展を支えてきた高雄市は、台湾で唯一国際空港と国際港湾の両方を有し、その国際港湾は世界有数規模でもあるという、台湾を代表する大都市の一つである。

この高雄市が産業構造高度化や社会課題の解決が求められる中で、スタートアップの育成を通じて「スマートシティ」へと進化し、新たな発展を遂げようとしていることは、筆者も「交流」2024年8月号¹及び9月号²でご紹介したところである。

その後も、高雄市は2025年1月に台湾初のグリーンフィンテックを主軸とした「高雄金融科技創新園區」を開設するなど、着実に未来に向けた歩みを続けている。

本稿では、地元アカデミアや政策現場への独自取材を通して、高雄市におけるスタートアップ支援の現状と今後の方向性を明らかにするとともに、日本との協力可能性についても検討する。

2. 高雄市政府のスタートアップ支援の概観

(1) 支援施設の運営

高雄市政府は①大港創艦メガベイ (MEGABAY)、②高雄インテリジェント・テクノロジー・イノベーション・パーク (高雄智慧科

技創新園區 (KO-IN 智高點))、③デジタルコンテンツ・クリエイティブセンター (數位内容創意中心 (DAKUO)) の3つのスタートアップ支援施設を運営し、廉価で利用しやすいオフィスの提供を行ってきた。そして、2025年1月には「高雄金融科技創新園區」を開設し、現在は4つの支援施設を運営している。

各施設の特徴について高雄市政府の資料³に基づき以下に概観する。

①大港創艦メガベイ (MEGABAY)

2023年10月27日に開所した大港創艦メガベイ (MEGABAY) は、高雄で最も高い「85ビル」の19階にあり、独立オフィス5室 (7～13坪) とコワーキングスペース40席を備える。日本の沖縄イノベーション戦略センター (ISCO) と協力意向書を締結しており、相互にスタートアップ



(出典：筆者撮影)

1 https://www.koryu.or.jp/publications/magazine/2024/2024_08.html

2 https://www.koryu.or.jp/publications/magazine/2024/2024_09.html

3 高雄市政府提供資料「日本福岡県北九州市新創起業発展環境簡報説明会」

展示会に参加している。

台湾当局が2021年から5年間で100億元超を投じ、高雄のベイエリアにおいて台湾最大級の5GとAIoTの実証実験エリアの開発に取り組んでいる「亜湾2.0計画」⁴と、高雄市政府のデジタル化・カーボンニュートラルという二つの軸による変革に対応し、スタートアップの国際展開支援とリソース連携の導入を目標としている。

②高雄インテリジェント・テクノロジー・イノベーション・パーク(高雄智慧科技創新園區(KO-IN 智高點))

2019年6月21日に開所したKO-IN 智高點は、AIとIoTなどのスマートテクノロジーを中核に据え、独立オフィス18室(8~14坪)とコワーキングスペース18席を備えている。

スマートテクノロジー企業に事業展開のためのスペース、リソース、機会を提供している。入居企業のビジネスチャンス創出を図り、AI・IoT・フィンテック産業クラスターの活発な発展を推進している。



(出典：筆者撮影)

③デジタルコンテンツ・クリエイティブセンター(數位内容創意中心(DAKUO))

デジタルコンテンツとスマートビジネスなどの発展を主眼にし、独立オフィス23室(面積10~50坪)とコワーキングスペース20席を備えている。

デジタルコンテンツを中核に据え、企業が高雄

に投資する足掛かりと中小企業のインキュベーターとして、高雄のデジタルコンテンツ産業における研究開発能力の深化を目指している。2025年8月までに累計86社が入居し、過去には日本のゲーム開発企業が入居した実績もある。

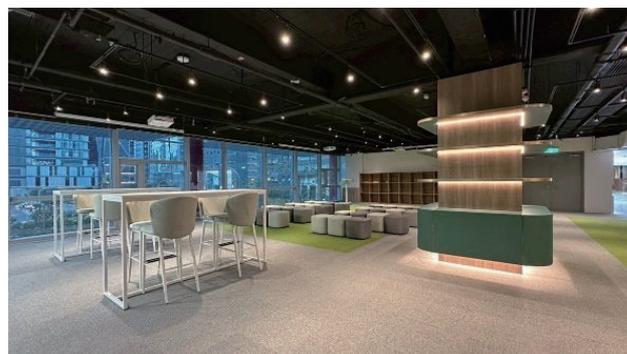
④「高雄金融科技创新園區」

2025年1月15日に開園した「高雄金融科技创新園區」は、高雄のベイフロントにある高雄ソフトウェア園区のスタートアップビル内に、独立オフィス2室とコワーキングスペース17席を備えている。2023年8月に高雄に設立された排出量取引市場の台湾炭素取引所(TCX)や、高雄市政府が2023年11月に設立したネットゼロ移行に関する基礎知識等を提供する台湾初のネットゼロアカデミー(淨零學院)等と連携し、グリーンフィンテックのエコシステムに係る革新的発展の推進を目指している。

「高雄金融科技创新園區」では、業界メンターによる指導・起業相談、資金・業務マッチング、実証補助、人材募集、国内外展示会・交流会等の



(出典：高雄市政府提供)



(出典：高雄市政府提供)

4 <https://smarcity.kcg.gov.tw/cp.aspx?n=EEB992074926D321&Create=1>

サービスを通じ、質の高いフィンテック分野の人材を育成している。また、技術実証と関連応用開発を提供し、スタートアップ産業エコシステムの構築を推進している。

(2) その他のスタートアップ支援

高雄市政府は、スタートアップ向け入居スペースの提供だけでなく、メンター指導や財務・技術・法規のコンプライアンス指導、企業戦略策定など起業相談、資金調達、新規産業顧客開拓などビジネスマッチング、実証補助、人材募集、国内外展示会・交流会の開催など多様なサービスも提供している。

具体的には、①就労ゴールドカードの申請に際する申請サポートの実施、②スタートアップ支援施設（大港創艦メガベイ、KO-IN 智高點、DAKUOなど）による起業家ビザに関する包括的な支援の提供、③スタートアップ支援施設を運営するベンチャーキャピタル「誠研創新」による会社設立、営業登記、銀行口座開設、税務登記などに関する支援、④高雄市政府が運営する4つのスタートアップ支援施設への入居支援、⑤スタートアップ企業が地元メディアに登場する機会を得られるような支援や「Meet Greater South」など地域の重要イベントなどへの出展機会の提供を通じたブランドの認知度と市場影響力を高める支援、⑥スタートアップ企業に対する南部地域の重要産業フォーラムや「Meet Greater South」など展示会への出展支援を通じたビジネスマッチング機会の提供を行っている。

(3) 「Meet Greater South」

これまでご紹介したように、ブランドの認知度と市場影響力向上やビジネスマッチングの支援策として、高雄市政府は展示会である「Meet Greater South」をその中核に位置づけている。この「Meet Greater South」は2021年に第1回が行われ、5回目となる2025年は8月22日と

23日の両日、例年同様、高雄のベイエリアにある「高雄展覽館」で開催された。筆者は8月23日に高雄展覽館の会場を訪れたので、現場の様子をご紹介したい。

今回は、シンガポール、米国、チェコなど9カ国から300のスタートアップチームが出展し、延べ約1万3,000人が参加した⁵。2024年は延べ1万2,000人の参加であった⁶ことから、参加者は1,000人増加している。



(出典：筆者撮影)

会場には、AI、5G、スマートシティ、医療健康など10の応用分野別展示エリアが設置され、各個別分野に関連する企業を紹介するブースが設置されていた。



(出典：すべて筆者撮影)

5 <https://cissearch.kcc.gov.tw/Upload/Attachment/BusinessReport/1671/d4487353-6803-4d5b-a8da-8e5bbddd67d6.pdf>

6 <https://cissearch.kcc.gov.tw/Upload/Attachment/BusinessReport/1599/aee43a95-5bb1-4a57-a58d-7ea50597ddba.pdf>

今回は初めて「科技人材交流ゾーン」が設けられ、9社の大手企業との人材マッチングも実施された。



(出展：筆者撮影)

また、「国際ゾーン」も設けられ、日本や香港、米国、シンガポール及びカナダなど合計31ブースが出展していた。



(出展：筆者撮影)

「国際ゾーン」では日本からの出展者にもお会いできた。日本最大級のメタバース企業である「クラスター」の岡庭嵩さんは、「Meet Greater South」への出展は初めてだが、台湾の持つ日本に近い地の利を活かしていきたい」と話されていた。



(出典：筆者撮影)



(出典：筆者撮影)

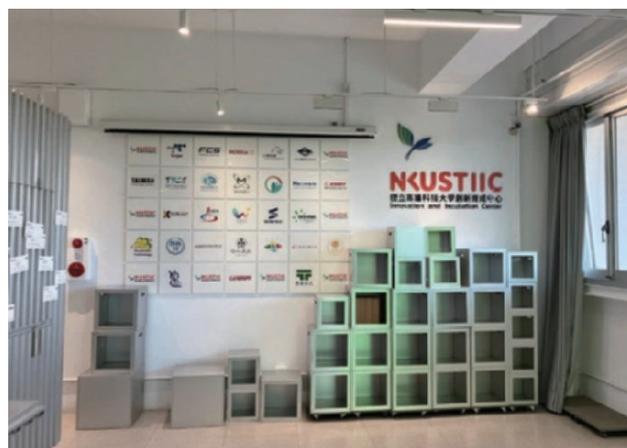
2025年10月に開催された、福岡への企業進出や投資を検討する海外市場向けイベント「Colive Fukuoka 2025」のPR担当・園田遼弥さんは「台湾からの参加者が年々増えている。今は台北市と福岡市がMOUを結んでいるが、高雄の成長にも注目し、官民での関係構築が今後、深まることを願っている」と話されていた。



(出典：筆者撮影)

3. 高雄のアカデミアにおけるイノベーション－高雄科技大学の現場－

高雄市政府がスタートアップ支援を積極的に行う中で、地元におけるイノベーションの中心である高雄の大学はスタートアップとどのように向き合っているのだろうか。今回、筆者は、高雄科技大学スタートアップ育成センターの蔡孟修・センター主任にお話を伺うことができた。以下はそのインタビューである。



(出展：筆者撮影)

(1) 高雄科技大学スタートアップ育成センターの概要

高雄科技大学スタートアップ育成センター（以下「センター」）は高雄科技大学における企業などの窓口と位置づけられており、30人ほどのスタッフを擁している。

「センター」は、産業界が求める課題と高雄科技大学の研究者が開発した技術のマッチングを行うための業務を行っている。「センター」の活動には2つの原則が存在する。1つめは、企業支援は主にスタートアップを対象にしているということ。なお、大企業とは人材育成や技術開発、スタートアップ共同事業等で連携している。2つめは、学生による創業や研究者の技術開発成果の事業化支援を行うことである。なお、企業によるスタートアップの起業も支援対象としている。また、学生のアイデアを活かすためのコワーキングスペースもある。

台湾のスタートアップ企業の場合、創業から5年で70%が市場から退出している。このため、「センター」ではオフィスを提供するとともに、教員の開発した技術を提供したり、ショールームを併設しPRの場を提供したり、小規模スペースを交流の場として提供し、特に大企業との交流機会を創出している。

大企業との協業として鉄道の例がある。鉄道の技術センターがあり、台湾高鉄（台湾新幹線）や台湾鐵路（台湾の在来線運営企業）と連携している。台湾のレール製造関連サプライチェーンは大きくない中で、そこに中小企業が参画するためには技術面やブランド面でハードルがあるが、「センター」が橋渡しすることで、レール製造関連サプライチェーンに中小企業が参画しやすくなっている。



(出展：筆者撮影)



(出展：筆者撮影)



(出展：筆者撮影)

「センター」では、科学技術に関する専門知識のみならず、財務や経営、商業や管理など、会社を立ち上げ経営するにあたって必要な知識全般について、高雄科技大学の教員に加えて外部からも講師を招いて伝授している。外部講師による講義はスタートアップ支援のためだけでなく、学生のカリキュラムにも含まれている。たとえば18週間の課程中、3週間は企業から招いた講師による教育を行うなどしている。

「センター」では3つの点に留意している。1つめは革新的なコア技術、たとえば鉄道技術センターのように特に発展させる必要のある技術分野

があれば、我々もそれを重点的に発展させることにしている。2つめは地元との関係を考慮している。たとえば、今いるキャンパスは橋頭（高雄市北部の地名）の産業園区まで歩いて5分の距離にあるため、地元産業の発展に貢献することを重視している。3つめは台湾の中央及び地方政府の政策に合致することである。現在では半導体やAIということになる。これら3つの点を適切な比重で考えながら発展させることにしている。

（2）高雄科技大学におけるスタートアップ支援の考え方

高雄市は、以前は重工業の街であり、最近では半導体産業が盛んになっているが、我々はこうした方向性に沿うようにスタートアップを発展させたいと考えている。もう一つのTSMCをつくるのではなく、TSMCが省エネ技術を必要としているなら、AIを活用した省エネ技術を開発して半導体産業と結合させることを考えている。

このような取り組みに6割を割く一方、伝統産業にもある程度の比重を置く必要がある。たとえば高雄所在の中国鉄鋼は大量の二酸化炭素を排出していることから、省エネに関する新しい技術と結合させることにより新たな発展が期待できる。つまり、製造過程の省エネや検査過程における省エネなどの中から、様々なスタートアップ企業が生まれることが期待できると考えている。

台湾南部のスタートアップは製造業中心に発展してきたが、技術マッチングのプラットフォームを構築してあらゆる技術をネット販売するといったことも可能であると考えている。

（3）高雄科技大学の優位性

高雄科技大学は機械や電気方面における加工や製造に優位性がある。次に立地面で優位性がある。高雄科技大学は複数のキャンパスを有するが、すべてのキャンパスが産業集積拠点に近く、午前中に治験した技術開発成果を午後には企業に持ち込むことができる。さらに人材についても優位性がある。高雄科技大学には2万8千人の学生と1千人の教員を擁しており、これは台湾大学に次ぐ規模となっている。

弱みもある。まず、これまでずっとB to Bに取り組んできたため、市場をどのように見出すかについてはあまり強くない。また、これまでも国際交流に取り組んできているが、北部に比べて南部はまだ少し弱い。このため、様々な取り組みを行って、こうした弱みを克服しようとしている。

（4）今後の方向性

あくまで教育機関であるため、コア技術を発展させることに主眼を置いている。高雄科技大学は大型の金属プレス機械をはじめとした金属加工技術を有している。こうした金属加工に関する専門的な製造技術は、ドローンや造船、半導体や大型の金属部品を必要とするAIのサーバー、あるいはレール製造に利用可能であり、関連産業を発展させる上で優位性になると考えている。

最近、台湾で関心が高まっている防衛産業についても、以前本学に所属した教員の中に航空産業関係者や中央研究院出身者がいたことから協力実績がある。防衛産業については、大型の金属加工機械を利用することにより大型部品の製造などを行うことができる。

鉄道産業について、新幹線を例にとると、アフターサービス目的やそれほど重要でない部品は台湾で製造することが可能であり、こうした分野で日台協力の可能性があるのではないかと考えている。

（5）日本への期待

日本で開催された展示会に参加した際、日本の企業関係者に機械製造技術を学ぶ高雄科技大学の学生を受け入れてもらえるか尋ねたところ快諾していただいた。日本の企業関係者が台湾の学生をインターンとして受け入れることに関心をお持ちであるなら、台湾の学生は喜んで日本企業に行くに違いない。また、日本の学生にも台湾に来ていただければ、日台間における双方向のよい交流になると考えている。

4. 今後の高雄市政府のスタートアップ支援政策

これまで積極的かつ戦略的なスタートアップ支援政策を展開してきた高雄市政府は、これまでの取り組みと成果をどのように受け止め、今後どのような展開を考えているのだろうか。

今回も高雄市政府における経済政策責任者である廖泰翔・経済発展局長にお話を伺うことができた。以下はそのインタビューである。



(左：筆者、右：廖泰翔・高雄市政府経済発展局長)

(1) スタートアップ支援の最新状況

スタートアップ支援政策には2つの大きな方向性があると考えている。1つめは現在あるスタートアップ支援基地を活用して、さらに多くの企業が高雄に進出してくるようになること。現在、4つの基地があり、その中の一つであるデジタルコンテンツを対象とした基地ではすでに日本企業との協力関係を結んでいる。また、大企業や中央研究院とも協力し、半導体の検査に使用するテストプローブ（デバイスの機能や性能を確認し、不良品を早期に特定するためのもの）の研究を行えるようにしている。このような研究開発に際して、アカデミアや国際パートナー、地元企業との連携や資本の募集に際して支援を行っている。

高雄金融科技創新園區では、高雄市政府が仲介して金融機関と高雄の鉄鋼産業との協力関係を構築し、二酸化炭素排出削減の取り組みに融資が受けられるようにして、ゼロ排出に向けて取り組ん

でもらえるようにしたいと考えている。現在、金融機関は金融管理委員会から二酸化炭素排出状況の把握を求められているため、高排出企業に対する融資に消極的である。このため、中国鋼鉄や台湾プラスチック、台湾中油のような高排出企業はよい融資を受けることが難しくなっているが、専用の融資スキームを通じた融資により排出削減に取り組むことができれば台湾全体のゼロ排出に貢献できる。また、こうした取り組みは、高雄の高排出企業が抱える融資の問題を解決するだけでなく、金融管理委員会とともに規制緩和の余地がないかも検討できるので、スタートアップ企業が活躍する余地も広がり得る。

2つめは、地元企業がAIを取り入れるような政策を行っており、この取り組みにより、高雄市政府は2025年の「天下雑誌都市卓越賞」（天下雑誌は1981年に創刊された台湾初の経済専門誌）を受賞した。この取り組みは、エヌビディアのインセプションプログラム（スタートアップの技術革新とビジネスの成長をあらゆる段階で促進するように企図されたプログラム）を通じてスタートアップ企業の有する技術を把握して協力テーマを探すと同時に、高雄においてもAI技術を導入しようとしている企業を探してマッチングを行い、協力する取り組みである。また、こうした協力を行う際にはPOC（Proof of Concept：新しいアイデアや技術の実現可能性を検証すること）を設定しており、ハイテク技術導入に必要な資金調達の際や、初めてAI技術を導入しようとしている企業を探す際にも応用できる。たとえば、中国鋼鉄の子会社である高雄所在の中鋼炭素は、AIを活用して生産工程における効率改善を追求したところ、生産量を維持したまま使用電力量等を削減できることがわかったので、生産ラインにこのようなシステムを導入するよう取り組んでいる。別の例だが、地元の繊維企業と協力し、AIの3D技術導入によりサンプル制作過程をデジタル化することで、製品の質感や色彩の検討を効率化した。今までは少なくとも8ヶ月ほどかけて試作品を何回も作成して確認する必要があったが、AIの3D技術の活用によりこの期間を4ヶ月に短縮することが可能になり、染色プロセスなどで二酸化炭

素排出削減も可能になった。この事例は繊維の業界団体にも共有したが、こうした成果が台湾全体の繊維業界で採用されるようになれば、台湾の繊維産業における重要な特色にもなる。こうした取り組みがここ2年間に30例あり、4億台湾元の投資実績があった。

高雄市は台湾で最も二酸化炭素排出量が多いため、AIなどのハイテク技術も活用した排出量の削減は政策の最優先課題の一つである。また、高雄市では川上から川下に至るまで様々な生産活動が行われており、高雄市所在の企業がAIを活用して生産活動や業務をレベルアップすることを通じて、高雄市の企業全体のレベルアップができるようにしたいと考えている。

(2) 2025 Meet Greater Southの受け止めと今後の展開

今回はAI関連のスタートアップ企業の参加が増加しており、AIが鍵になると考えている。それと同時に、AI関連のスタートアップ企業は、その成果がすぐに取って代わられることもあるなど、それほど簡単なものではないことも承知している。高雄市政府もAIスタートアップが直面している課題に向き合いつつ、今後どのような協力ができるかについて考えていく必要がある。

先ほどご紹介したいくつかの成果についてはMeet Greater Southにおいても紹介し、多くの関心を集めた。このように、この5年間で少し基礎ができたと考えているが、今後は台湾だけでなく海外のバイヤーなどにも多くの参加を得るようにしていきたいと考えている。

AIはそれ自体が独立して存在する産業ではなく他の産業と結びつくことでより大きな価値を見出すことになると考えている。特に高雄市の製造業におけるレベルアップのためにAIをいかに応用できるかが来年のMeet Greater Southの方向性になると考えている。

(3) 現在の課題と今後の方向性

最大の課題は時間である。これまでは、半導体のサプライチェーン構築とAIが及ぼす各産業への影響について努力してきたと考えている。

半導体のサプライチェーン構築については、高雄ひいては台湾南部が世界の半導体サプライチェーンで重要な地位を占められるように考えてきた。この1年間、半導体産業の主要企業に対する十分な土地の提供、半導体産業で鍵となる大企業のサプライチェーンの高雄への定着、半導体関連企業が必要な人材を育成するための清華大学及び陽明交通大学の早期の高雄誘致、高雄の地元の就職希望者の高雄のハイテク産業への就職、新たな学生の高雄への誘致について考えてきた。今後は、半導体関連企業の高雄への誘致とは別に、化学材料産業のような既存産業の半導体産業への応用が可能となるよう、さらにスピードアップが必要と考えている。

AIの活用については数多くの提案を作成したが、それぞれ異なる企業が膨大に存在する中で、個別企業向けの提案を作成することはできない。このため、提供する提案から異なる産業や分野においても課題解決の道筋を見出してほしいと考えている。そのためには、提案における汎用性の確保と、各企業でどのように応用してもらえるようにするかが課題となり、高雄市政府が行うべき努力の方向性となっている。

高雄市全体の発展のためには、重工業、スタートアップ、ハイテク産業から商業発展に至るまで目配りする必要がある。産業発展の過程では、重工業企業がハイテク産業の一部になることや、AIを活用して効率を向上させることも必要であり、引き続き努力していく。

(4) 日本への期待

台湾には、柔軟性のある生産やTSMCに近いなどの優位性があり、日本の技術と台湾の柔軟性を活用すればよいパートナーになると確信している。加えて、日台は生活様式や文化などの面で相互理解ができる間柄であることもパートナーとなる点で有利であると考えている。

台湾は、今でも多くのスタートアップ企業やB to C、ハイテク産業の製品などについてやや弱いと認識している。このため、日本の経験を学んだ台湾企業による消費者向け実証実験や、競争的で開かれ国際的にも認められた台湾市場での実証

実験の実施は有意義と考えている。

最後に、エコタウンについて日本は特にソフト面で強みがあるが、最近では高雄市もエコタウンに力を入れており、日本のエコタウンとの交流や経験の共有も期待している。

5. おわりに

今回、これまで重化学工業都市として発展してきた高雄市が、スタートアップとともに未来に向けて飛躍を図る様子について、政策とアカデミアの現場取材した。その結果、重工業都市としての産業蓄積を踏まえ、AIスタートアップの技術を活用したプロセス効率化等を通じて、二酸化炭素排出削減とスタートアップ活躍の機会拡大とを両立させる戦略が、政策当局とアカデミア一体で推進されていることが明らかとなった。また、政策当局とアカデミアがともに、スタートアップの活躍のみならず、高雄の既存産業である鉄鋼産業や金属加工業の持続可能な発展に向けたレベルアップをも実現しようとしていることも明らかと

なった。そのためのツールとして、AIに加えて金融まで視野に入れ、スタートアップから重化学工業、ハイテク産業や商業に至るまで伸張を図ろうとしていた。

日本との協力可能性については、日台間の学生の相互交流や、日本の技術と台湾の柔軟性とのお互いの強みを活かした連携、日本が先行するスタートアップやB to C、ハイテク産業における経験の台湾への共有に期待が示された。日本と台湾とが生活様式や文化などの面で親和性がある点も指摘された。

足下の産業基盤を踏まえて明確な政策目標を立て、スタートアップに加え製造業から金融業に至る幅広い産業とアカデミアをも巻き込み、多様なツールを駆使して政策実現を図る高雄市政府の取り組みは戦略的である。筆者も、日台の様々な関係者が有機的に連携できるよう、これからも日々の交流に地道に取り組んでいく。

以上